

はじめに

算数科教育で和歌山市の研究指定をうけての1年目。基本に戻り、一から研究を始めることにしました。「算数科を通して思考力の育成を目指す」という主題は、前年度までと同様です。「見える思考力とは何か」と考え、「かくこと」に焦点をあて、具体的に、スモールステップで、確実に歩む実践研究を進めてきました。本年も、各学年1と特別支援学級が算数科の研究授業を行い、その後の協議会では、発問・児童理解・教材の解釈・板書等について意見を交換しました。おそらく、どこの学校でも同じ様な形で現職教育が進められているのではないのでしょうか。

近年、このような我々が普通に行っている研究授業と、その後の協議会が、世界から注目されています。授業研究は Lesson Study、研究授業は Research Lesson と訳され、言葉としても定着しつつあります。日本の研究者の中には、そのまま Kenkyu Jugyou と表現されるべきだったと述べる人もいるくらい世界からの注目度が高いのです。

注目されているのは、研究のシステムと授業の基本が問題解決型であることです。何時間もの日本の授業が英語に訳され、諸外国でも実践にむかっています。しかし、どうしても上手くいかない部分があることが明確になってきました。いわゆる文化の違いです。

日頃、何の疑問も感じずに当たり前のように行っている授業研究ですが、その成立は日本固有の文化に根ざされています。協議の柱となる発問・板書・机間指導等は、英訳が困難な概念でもあります。こうした研究の進め方そのものにも価値があることに気づき、より研究内容を深めたいと思います。

小さな一歩を歩み始め、各学年が授業研究を通して検討してきた内容を、本冊子にまとめました。

より多くの皆様にご高覧いただき、ご忌憚のないご指導やご意見をいただければ幸いです。次年度の実践研究に活用させていただきたく存じます。

平成 25 年 3 月

(2013 年)

学校長 山本紀代